



## レイヤ3 ネットワーク設定の前提条件

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [レイヤ3 前提条件 \(1 ページ\)](#)

### レイヤ3 前提条件

このガイドのタスクを開始する前に、次のことを行ってください。

- ACI ファブリックと APIC コントローラがオンラインであり、APIC クラスタが形成され健全であることを確認します—詳細については、*Cisco APIC Getting Started Guide, Release 2.x* を参照してください。
- レイヤ3 ネットワークを構成する管理者のファブリック管理者アカウントが使用可能であることを確認します—詳細については、*Cisco APIC Basic Configuration Guide* の *User Access, Authentication, and Accounting* および *Management* の章を参照してください。
- 目的のリーフ スイッチとスパイン スイッチ (必要なインターフェイスを使用可能) が使用可能であることを確認します—詳細については、*Cisco APIC Getting Started Guide, Release 2.x* を参照してください。

仮想スイッチのインストールと登録の詳細については、*Cisco ACI Virtualization Guide* を参照してください。

- レイヤ3 ネットワークを消費するテナント、ブリッジドメイン、VRF、および EPG (アプリケーションプロファイルとコントラクトを含む) を設定します—詳細については、*Cisco APIC Basic Configuration Guide* の *Basic User Tenant Configuration* の章を参照してください。
- NTP、DNS サービス、および DHCP リレー ポリシーを設定します—詳細については、*Cisco APIC Basic Configuration Guide, Release 2.x* の *Provisioning Core ACI Fabric Services* の章を参照してください。



**注意** ファブリックのリーフスイッチとスパインスイッチの間に1ギガビットイーサネット (GE) または 10GE リンクを設置すると、帯域幅が不十分なために、パケットが転送されずにドロップされる可能性があります。これを避けるためには、リーフスイッチとスパインスイッチの間で 40GE または 100GE リンクを使用してください。

## ブリッジドメインの構成

**レイヤ3の設定** ブリッジドメイン [0] パネルのタブには次のパラメータを設定するには、管理者が使用できます。

- **ユニキャストルーティング** : この設定が有効になっているサブネットアドレスが設定されている場合は、ファブリックはデフォルトゲートウェイの機能を提供して、トラフィックをルーティングします。ユニキャストルーティングを有効にすると、マッピングデータベースがこのブリッジドメインのエンドポイントに付与された IP アドレスと VTEP の対応関係を学習します。IP 学習は、ブリッジドメイン内にサブネットが構成されているかどうかにかかわらず行われます。
- **サブネットアドレス** : このオプションは、ブリッジドメインの SVI IP アドレス (デフォルトゲートウェイ) を設定します。
- **制限のサブネット IP ラーニング** : このオプションは、ユニキャストリバース転送パスチェックに似ています。このオプションを選択すると、ファブリックはブリッジドメインに設定されている 1 以外のサブネットから IP アドレスを学習されません。



**注意** 有効化 **サブネットに制限 IP ラーニング** がブリッジドメイン内のトラフィックを停止します。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。